

長野県図書館協会  
デジタル版 小中学校図書館部会だより  
第154号（令和元年度）

## 第69回長野県図書館大会東御大会を終えて

県図書館協会小中学校部会上小支部長  
上田市立城下小学校 塚田 量

11月9日（土）に第69回長野県図書館大会が東御市において、大会テーマ『地域と共に知り、共に創る』のもと開催されました。台風19号の爪痕が県下各地に残り、地元東御市でも「しなの鉄道」が上田駅と田中駅の間が復旧しない状況で、大会開催への影響も心配されました。当日は温かい日和となり、早朝より県下各地を出発された総勢500名を超えるみなさんにお集まりいただきました。

午前中は東御市文化会館サンテラスホールにて開会式と講演会を行い、午後は東御市立東部中学校にて分科会を行いました。

講演会では講師の広沢里枝子先生に「社会がつくる障がい 社会がなくせる障がい ～視覚障がい者の立場から、お話と越後ごぜ唄～」の演題でお話いただきました。自らのご体験を元に、社会を構成する私たち一人一人の心の持ち方一つで、障がいをお持ちの方が生き生きと暮らせる社会になる、そんな夢を語っていただくと共に、インクルーシブな時代の図書館のあり方についてもお話いただきました。特に、最後の「越後ごぜ唄」の演奏は、会場の皆さんが熱心に聴き入っていました。

午後は14の分科会が開かれました。小中学校図書館部会からは、第3「いきいきとした学校図書館を創造する司書教諭の役割～学校司書との連携のあり方～」 第4「ここから始める学校司書の働き方改革～だいじょうぶ ひとりじゃないよ～」 第5「図書館の管理・運営のあり方」 第6「学習センターとしての機能を推進するための取組」 第7「情報センターとしての機能を推進するための取組」の5つの分科会にてレポート発表や実践発表、グループ討議などが活発に行われました。それぞれの分科会で、魅力的な図書館にするための工夫や、図書館利用の工夫をご発表いただきました。そして、大変意欲的に、聞き合い話し合い研修されている様子がありました。レポート発表者、司会者、記録者、助言者、世話係のみなさんには、準備や当日の進行、ご助言など大変ご尽力いただきありがとうございました。

今回の図書館大会に向けて、東御市教育委員会・東御市図書館を中核に実行委員会が組織され、県の大会企画運営委員会や小中学校図書館部会と連絡し合い、ご助言をいただきながら推進してまいりました。不慣れな面も多くありましたが、各支部の支部長の皆様、小中学校部会の幹事会のみなさん、長野県図書館協会の小林さん等多くの皆様のご協力をいただき開催することができましたことに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

そしてなにより、県下各地から台風19号の影響が残る中、東御市まで足をお運びいただいた参加者の皆様にお礼申し上げます。この図書館大会で研修されたことを是非、各校の図書館教育で生かしていただければ幸いです。

最後になりましたが、図書館や図書館教育のますますの充実とご発展をお祈り申し上げ、開催地上小支部を代表した挨拶といたします。

## 第69回長野県学校図書館研究大会(東御大会) 参加者の声

南牧村立南牧南小学校 甘利 新

私は東御市で行われた研究大会(講演会、分科会)に参加させていただきました。

講演会では、広沢里枝子先生から「社会がつくる障がい 社会がなくせる障がい～視覚障がい者の立場から、お話と越後誓女唄～」というテーマで「読書バリアフリー法」や社会の障壁をなくすために情報保障(点字やテキストデータ等)を市町村や学校の図書館でも充実させ、障がいの有無にかかわらずそれぞれのニーズに合わせて読書環境を整えていくことが必要であるとおっしゃっていました。

分科会では「図書館の管理・運営のあり方」ということについて、塩尻市学校図書館委員会と安曇野市立三郷中学校の実践発表から多くのことを学びました。

- ・市立図書館と連携していくことで学校図書館の向上を図る。(出張授業やサポート)
- ・学びの場として図書館の充実  
(調べ学習等の掲示物や装飾、生徒・教師に有益な記事のスクラップブック)
- ・子どもたちが来たく読みたいような企画や読書支援をしていく。
- ・図書委員が活躍できる、運営している気持ちになれるようにする。

図書館に来る子は固定化されがちですが、少し取り組みを変えることで様々な本に触れ、図書館に足を運びが増えると感じました。学校の司書の先生や公共の図書館の方々より連携しながらより良い図書館運営をしていくことも必要だと思いました。助言者の岡田先生が「借りる側の視点に立って、手立てや工夫をする。」という相手意識や目的意識を持って管理・運営していくことがとても大切だと感じました。「静かに読む場」として考えられることが多かったが、子どもたちの居場所となるためにこれからの図書館のあり方を考えさせられる一日になりました。

長野市立川田小学校 平塚 裕子

長野県図書館大会の「学習センターとしての機能を推進するための取組」という分科会に参加しました。そこで、飯田市立竜丘小学校と須坂市立常盤中学校の実践例をお聞きしました。どちらも、学校図書館を活用するための取組がされていました。

竜丘小学校の取組は、1年国語「くちばし」の単元で個々にクイズをつくるために、図書館を活用したものでした。学校司書の方は単元に合う本を読み聞かせし、興味深く取り組めるようにしていました。また、前もって図書館に多くの資料を準備し、わかりやすいように調べるページに付箋を貼っておくなど支援していました。そして、できたクイズを掲示するスペースを図書館に準備して、できた情報を図書館が提供する場にもなっていました。司書教諭と司書がよく連携されていました。

常盤中学校の取組では、さまざまな場面で図書館に行く機会をつくってもらい、図書館を多く活用していました。ビブリオバトルを計画し、図書館で本を選んでもらう時間をとっていました。そして、学習時にレポートをまとめたり、意見文を書くための情報集めに、図書館を利用してもらったりしていました。小学校に比べると読書離れが進むそうで、意図的に図書館へ行くという機会をつくってもらうことが大切とのことでした。

図書館大会の分科会に参加して、どうすれば学習センターとしての学校図書館になるか、考えるいい機会になりました。どちらの学校も、図書館での学習を調べるだけでなく、興味深く学ぶための手立てとしていました。そんな魅力ある学校図書館にするには、多くの人にかかわってもらうことが大切で、その人達のニーズに合わせていくことが、重要であると思いました。そうすれば、きっと活用されることも増えていくことと思います。そのためには、どんなものにも対応できるように、計画的に資料の収集や環境整備していくことが大切であると感じました。これからも、学習センターとして教育活動における学校図書館のかかわりが増えるよう、支援していきたいと思いました。

青木村立青木小学校 柳澤 章仁

講演では、広沢里枝子さんの「社会がつくる障がい 社会がなくせる障がい～視覚障がい者の立場から、お話と越後誓女唄」という演題で講演をお聞きしました。最初に紹介していただいたお子さんとの思い出の詩が素敵だなと思いました。特に、落ち葉の上で足や手や顔に落ち葉の感触を覚えさせる場面がとても好きです。また、別紙で配布された「読書バリアフリー法について」といった、視覚障がいの方の情報取得に関する話題にも触れていただきました。このような法律が整備されつつあるということを知り、情報を得る手段として点字を利用するだけでなく、テクノロジーを活用してさらに情報の取得がしやすくなってきているということが分かりました。最後の越後誓女唄も、ボリュームたっぷりに聞かせていただき、迫りに圧倒されました。広沢さんがこのように誓女唄を披露して下さることが、誓女唄の継承ということについて、とても重要な役割を果たされているのではないかと感じました。

午後の分科会では、「情報センターとしての機能を推進するための取組」という会に参加させていただきました。実践事例の発表をお聞きして、授業で活用するには事前の打ち合わせが大切だということを変更して学ばせていただきました。また、司書の先生が年度途中でもオリエンテーションのようなことをされたり、情報を得たり調べたりといったリテラシーに関わる学習を行ったりと、子どもの実態に合わせて学習を組んで下さっていることが印象に残りました。グループ協議では各校の実態を発表し、大変さや司書・学級担任のそれぞれの立場での苦労や工夫にうなずきながら、和やかに情報交換ができました。他校の図書館の様子を知ったり、司書の先生方と関わったりする機会は日頃ありませんので、1つひとつの情報がとても新鮮でこのような機会を頂いて良かったと思いました。

読書の秋にふさわしい、実りある1日になりました。自分自身、まずは読書を楽しみたいです。

# 第30回北信越地区学校図書館研究大会

## (第52回新潟県学校図書館研究大会) 新潟市大会に参加して

長野県図書館協会小中学校学校図書館部会常任幹事  
長野市立徳間小学校 清水 克則

第30回北信越地区学校図書館研究大会が、新潟県新潟市にて開催されました。新しい学習指導要領の全面実施を目前にし、学校図書館の充実・活用のあり方を考える、貴重な学びの場となる大会でした。以下、ご報告いたします。

- 1 開催期日 令和元年9月26日(木)・27日(金)
- 2 開催地 新潟県新潟市 りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館  
ほんぼーと新潟市立中央図書館  
じょいあす新潟会館、市内中学校・高等学校
- 3 大会テーマ 「主体的・対話的で深い学びを支える図書館教育のあり方」
- 4 日程 1日目：実践講座①～⑦、北信越地区学校図書館連絡協議会  
2日目：分科会A1～2、B1～3、C1～2  
SLA報告「学校図書館の現状と課題」  
全国学校図書館協議会 理事長 設楽 敬一 氏  
記念講演「心がゆたかになるって ということ？  
～読書の効能を考える～」  
児童文学者・翻訳家 清水真砂子 氏

### 5 概要

1日目の実践講座は、新潟市の授業マイスター及びそれに相当する授業力を有している発表者によるもので、模擬授業や実際の授業の映像を通じたものとなっていました。私が参加した「第4講座 小・中学校 総合的な学習」(地域を素材とした探究活動における図書館資料の活用・図書館との連携について)では、「フィッシュボーン」や「ピラミッドチャート」といった思考ツールを用いて、目的や課題に応じて自立的に情報活用する子どもをどのように育成するか、参加者も実際に体験しながら楽しく学ぶ講座でした。また、地域の偉人「吉田千秋」の功績について学ぶ上での図書館資料の活用の様子についても紹介され、大変興味深く学ぶことができました。

2日目の記念講演では、講師の清水氏が、「読書をするとう心がゆたかに、穏やかに、優しくなるといいますが、読書はそんなに安全なのか？」と問いかけられました。読書をするとう時には不安にもなります。「死」の場面に触れることもあります。「児童文学＝明るく、ニコニコ、元気、活発、夢がある」、ここから脱却したいと話しておられました。「児童文学を読むよりも、光を浴び、風を感じる体験こそが大事なのではないですか」と言われたことがあったそうですが、清水氏は、読書をするとうことで、時間・空間を超えて人とつながる素晴らしさがあり、「学ぶ」とは、つながるといふことではないでしょうかとおっしゃっていました。

新潟での2日間は、主体的・対話的で深い学びを支える図書館教育とはどのようなものなのか、図書館教育とはどうあるべきかを見つめ直す大変有意義な大会でした。

# 地区学校図書館教育研究会から

北信地区

10月25日 坂城町立南条小学校 坂城中学校

「北信地区 学校図書館教育研究会を終えて」

更埴支部代表 千曲市立東小学校 酒井 康行

令和元年度「北信地区学校図書館教育研究会」は、10月25日（金）に坂城町立南条小学校・坂城町立坂城中学校を会場として以下のように開催され、充実した研修となりました。

## 1 研究テーマ 「豊かな心を育てる図書館教育のあり方」

## 2 公開授業・授業研究会

会場校	授業学級・授業者	教科・単元名	指導者
南条小学校	6年2組 酒井 文 教諭	国語 「やまなし」	北信教育事務所 指導主事 久保 貴文 先生
坂城中学校	3年2組 笠川 麻由香 教諭	英語 Lesson6 「日本文化を紹介しよう」	長野県総合教育センター 専門主事 岡田 泰輔 先生

## 3 講演会

講師 いとう みく先生（児童文学作者）

演題 『物語を書くということ』

## 4 参加者

小学校の部 57名 中学校の部 35名 合計92名

## 5 まとめ

北信地区より各学校の司書教諭・学校司書・図書館教育に関わる先生方にご参加いただき、学校図書館教育研究会を実施することができました。

小学校では、宮沢賢治「やまなし」（国語教材6年）をきっかけにして、自分の好きな宮沢作品を探究していく授業が展開されました。賢治の本が児童の人数分用意されるなど、興味関心を引き出す環境づくりが図られていました。また、子ども達が集中して宮沢賢治の本から夢中になって言葉を探していたのは、単元展開と授業者、研究部会の教材研究によって生まれてきたものと思われます。「一生懸命探す『量』から友だちとの交流によって思いを深める『質』へとの高まりがとても楽しみになった」といったご意見を頂きました。環境づくりが大変参考になりました。

また、中学校では自分の紹介したい日本文化を英語で英作していくという授業が行われました。日本文化を英語で紹介した本に触れるなど、英語学習における図書館利用の有効活用が示されました。授業風景からも、原稿から生徒達が楽しく日本文化を調べていた様子が見えました。「学習センター、情報センターとしての取り組みを参考にさせて頂こうと思う」などの感想を頂いています。

児童文学作家のいとうみくさんの講演会では、書き手の側から社会や人物を考察する視点を紹介して頂きました。私たち読み手としても、様々な視点で本に向き合う読書の味わい方を知ることができました。なかなか聴くことのできない作家の創作活動についてお伺いすることができ貴重な体験になりました。また、「自分の学校の図書館にも、先生の著書が何冊かある。自分もいとうさんの作品が好きで楽しみにしていた。」「作品の脇役の登場人物がとても魅力的。『その人を知りたい』この好奇心が魅力的な人物像の背景となっていることを講演でお聞きし納得できた。大変有意義な機会をありがとうございました。」「『児童文学では過酷な状況の中でも周りに信頼できる大人がでてくる』というお話が心に残った。大人である自分の言動の責任を感じる。まだ読んでない作品が読みたくなった。図書館に行きたい。」など、大変多くの方々から講演をお聴きすることができた喜びの声を頂きました。

最後になりましたが、南条小学校と坂城中学校、皆さんの協力のお陰で、大会をスムーズに運営することができました。台風19号の影響で研究会開催も懸念されるなか、各支部のご協力の下、無理のないようにそれぞれでご対応頂く中、無事に開催できたことに心より感謝申し上げます。ご協力ありがとうございました。



## 北信地区学校図書館教育研究会に参加して

千曲市立東小学校 越野 敦子

令和元年10月25日(金)に北信地区学校図書館教育研究会が坂城町立南条小学校において、図書館大会テーマ「豊かな心を育てる図書館教育のあり方」のもと、開催されました。南条小学校では、図書館教育テーマ「自主的・主体的に読書をし、友とかかわりあいながら自分の考えを深めていく図書館教育のあり方」とし、酒井文教諭による6年生の『やまなし』の授業が公開されました。

6年生の教室前の廊下には、先生方が子ども達に読ませたい宮沢賢治作品がずらりと並べられていました。そこには、子ども達が手に取りやすいように、先生方の親しみやすいポップが添えられています。国語の授業で宮沢賢治について学習し始めた子ども達にとって、興味がわいて読んでみたくなるだろうと思いました。

宮沢賢治作品は子ども達に読んでもらいたい本ですが、子ども達にとっては、内容が難しい部分もあります。ですが、酒井先生は、『やまなし』で学習したオノマトペ、擬音語、擬態語、色彩、鉱物、比喩などを生かし、他の宮沢賢治作品についてもその良さはないか見つけていく、子ども達の興味を広げる授業をされました。そして、本時では、子ども達が自分で探した『宮沢賢治のお話のここが好き』を友達同士で発表し合うことを目指して、様々な宮沢賢治作品からも表現の工夫はないか、熱心に調べていました。同じ本に子ども達同士が集まり、情報交換しながら調べていたことも、一人で調べるより子ども達は安心してわかったことをワークシートに書いていました。

国語の学習と図書館を結びつけるにはどうしたらいいか、普段から授業にとり入れていきたいと考えていましたが、酒井先生の実践されたように私も学校に帰り、取り組んで見たいと思います。大変勉強になりました。ありがとうございました。

## 北信地区学校図書館教育研究会に参加して

千曲市立更埴西中学校 當麻 紅瑠美

北信地区学校図書館教育研究会に参加し、東小学校の授業を参観させていただきました。小学校6年生の教材である宮沢賢治の「やまなし」の授業の発展で、今回は、『やまなし』でいいなと思ったことをもとに、『これまで読んだ宮沢賢治の作品からもここが好き』を見つける」という授業で、たくさんの宮沢賢治の作品の中から自分が好きな部分を見つけ出すという授業でした。授業会場に向かうと、先生の細やかな配慮が目にとまりました。廊下や教室の至るところに、あちこちの図書館から取り寄せられた宮沢賢治の本がたくさん並べられていたのです。授業では、自ら「ほかの作品ではどうなっているのだろう」と、児童は目を輝かせ、本を手にとって一心に読みふける姿がありました。ある児童は「色」を、またある児童は「おもしろい言葉」を、というように自分でテーマをもち、まるで宝探しをするかのように、本の中から言葉を探す児童の姿に感動しました。「活字離れ」が進んでいて、なかなか本を読むことに抵抗を感じる児童・生徒も少なくない中、わくわくして読書を楽しむ児童が目につきました。そして、何か自分も国語科教師としてできることがあるのではないかと強く感じました。

その後の講演会では、児童文学作者である いうみくさん のお話をお聴きしました。自分自身、いうみくさんの作品の読者でありましたので、どんなふうに作品が生まれたのか、その裏話をお聴きでき、とても胸躍る時間となりました。いうみくさんの「ここはどうなっているだろう」「これはどうしてそうなったのかな」というあふれる探究心や好奇心が、読者をわくわくさせる作品を創りあげているのだなあと感じました。

図書館大会に参加させていただき、もっと図書館と教科のかかわりを深めていきたいと改めて思いました。宝探しをするように本を読む、そんな経験を授業で実感してほしいと思いました。今回の経験を、明日からの授業実践に生かしていきます。

1 研究テーマ

中信地区学校図書館教育研究会テーマ

「自ら学び、豊かな心を育てる図書館教育はどうあったらよいか」

福島小学校図書館教育部会研究テーマ

「図書や図書館の利用を通しての考える力を高める授業づくり」

2 公開授業・授業研究会

会場	授業学年	教科「单元名」(授業会場)	授業者	指導者
福島小学校	2年	国語「秘密の本を紹介しよう」 ～シークレットブック～ (2年2組教室)	山口 亜弥 教諭	中信教育事務所 指導主事 古旗 明 先生
小学校	6年	社会「3人の武将と天下統一」 (6年教室・図書館)	岩田 祥 教諭	長野県総合教育センター 専門主事 宮下 正史 先生
町図書館	3年	総合的な学習の時間 「“まちとしよ”へ行こう」 (木曾町図書館)	傳田 哲也 教諭	中信教育事務所 指導主事 三浦 克友 先生

3 講演

演題 「私の絵本と旅」 講師 絵本作家 小林 豊 氏

執筆絵本 「せかいいちうつくしいぼくの村」(ポプラ社1995年)

「ぼくの村にサーカスがきた」(ポプラ社1995年) 他多数

4 参加者人数

78名 (主催者・来賓5名 郡外22名 郡内51名)

5 まとめ

上記のように中信地区学校図書館教育研究会のテーマの下、開催校である福島小学校図書館教育部会のテーマを掲げ、3学級において授業公開を行った。2年生、6年生は自校の図書館および図書を活用しての授業、3年生は近くにある木曾町図書館を会場にしての授業を公開。子どもたちの考える力を高めるための主体的な学習のあり方について提案した。特に公共の図書館を授業で活用していくことの可能性について新たな視野を広げていく上で、一般の利用者もいる図書館での授業公開は意義深いものとなった。授業研究会では参観者から子どもたちの学びの具体的な姿や授業のあり方について多くのご意見をいただくことができた。指導を仰いだ3名の主事先生方からは、新学習指導要領に基づく考える力の育成やそれに伴う図書館の果たす役割等についてお話いただき、得るものの大きい授業公開であった。



6年生授業



講演会 小林 豊 先生

引き続き開催された講演会では、絵本作家である小林豊先生から、「私の絵本と旅」と題して、先生の豊かな海外経験から生まれる世界や、絵本作りへの思いについてご講演いただいた。「五感で捉えることの大切さ」や「自分の声を取り戻す」ことの大切さを教えていただき、終盤は参加者からの質問にも応じていただく形で、平和の尊さを考え合う貴重な時間を過ごした。

本年度は大会を半日開催とし、多くの方がより参加しやすい形を模索したのも新たな提案の一つであり、参観者からも好評であった。

長野県図書館協会宮尾小中部会長、木曾町教育委員会山瀬教育長のご臨席を賜り、中信地区教職員、学校司書が一堂に会して図書館

教育のあり方について学び合う貴重なひとときとなった。

## 中信地区学校図書館教育研究会に参加して

木曾町立日義小学校 清水 彩香里

福島小学校の実践から、図書館教育について多くのことを学ぶことができました。

2年生の授業で、読む人をひきつけるためのキャッチフレーズ作りを行っていました。私は、「シークレットブック」という取り組みに強い魅力を感じました。読み手が、中に何があるかわからない状態で、キャッチフレーズだけを見て、どんな話なのか自分なりの想像をふくらませながら、本と出会う。この取り組みは、ただ図書館で本を借りるだけでは味わうことのできないわくわくを感じられます。また、絵を見て選ぶだけではなく、本の中に広がる物語や言葉に注目して本を選び、向き合うことができます。この取り組みから、本に関心をもっていく子は多くいるだろうと感じました。

実際の活動では、モデルを明確に示していた点が大変勉強になりました。担任の先生が作ったシークレットブックは、見通しをもつために必要不可欠だったと感じます。さらに、導入でモデルを2つ示し、子ども達に選ばせていた点も、効果的だったのではないのでしょうか。キャッチフレーズの形を確認することや、選ぶ側の視点を感じさせることで、その後の活動に生かすことができていました。シークレットブックを楽しんで読むことも大切ですが、自分達で作ることによって、本を通じた国語学習をすることができており、読書と学習の結びつきを学ぶことができました。

読書は国語における様々な力を伸ばすなど、学力向上効果があることに加え、生活や心を豊かにする力があると考えています。本を読むと、もう一つの人生を経験したような気持ちになったり、見えている世界が広がったりします。これから未来を選択していく子ども達にこそ、読書を通して、広く新しい世界を知ってほしいと感じます。

## 「ひと・こと・もの」とつながる“まちとしょ”との連携

生坂村立生坂中学校 山田 綾子

私は十年ほど前、福島中学校（現 木曾町中学校）に3年間お世話になりました。当時は公共図書館がなく、「地域に図書館を」と皆で切に願っていたことを覚えています。今回、福島小学校で行われる中信地区図書館教育研究会への参加の機会をいただき、地域の皆様の熱い思いや期待を受けてどんな図書館ができたのか、そして、そこを活用してどんな授業がなされるのか、とても楽しみにしていました。

参観させていただいた3年生の総合的な学習の時間の授業は木曾町図書館（通称“まちとしょ”）で行われ、子どもたちが「木曾の漬物」について調べていました。私が見ていたグループの子どもたちは、キムチの作り方を調べながら、分からない言葉が出てくる度に立ち止まって、「ポプラディア」で調べたり、司書の方に質問したりしていました。1つの棚には「発酵」をテーマにした本がたくさん集められており、地域の婦人部の皆さんが編纂した冊子も置いてありましたが、「漬物」というテーマだけあって、ほとんどが大人向けの本です。3年生の子どもたちにとって、それらを読解することは難しかったと思います。しかし、子どもたちの「調べたい」という思いと、どんな些細なことでも受け止めて一緒に調べてくれる人がいるという安心感の中で、子どもたちは熱心に活動を続けました。

今回の参観を通して、地域とつながるということは、そこに息づく「ひと・こと・もの」とつながることであり、公共図書館はまさにその3つと密につながることでできる場であるということを感じていただきました。そして、様々な教科や活動において公共図書館と連携し、継続していくことにより、地域の「ひと・こと・もの」が生活の一部として子どもたちの中に根付き、地域を愛する心が育まれていくのではないかと思います。

「南信地区 学校図書館教育研究会を終えて」

下伊那支部代表 根羽村立根羽小学校 柳瀬 賢司

1 研究テーマ 「本で出会う 新しい世界」

2 公開授業・授業研究会

会場校	授業学年・授業者	教科・単元名	指導者
阿智第二小学校	小学校6年 佐藤 由佳 教諭	総合的な学習の時間 「私たちの阿智村 もっと知って盛り上げプロジェクト」	中信教育事務所 指導主事 三浦 克友先生
阿智中学校	中学校3年 江口 尚 教諭	国語 「読書生活を豊かに～保育園訪問で読み聞かせをしよう。家庭科（保育）との連携」	長野県総合教育センター 専門主事 岡田 泰輔先生

3 講演

演題 「生涯学習の種まきを！～学校図書館の活用で子どもの探究心を育てる～」

講師 東京学芸大学等講師 元公立中学校司書教諭 村山 正子 氏

4 参加者人数 110名

5 まとめ

- (1) 前年度から授業提供校をお願いし、当初に打ち合わせ連絡会を持ち見通しを持った。必要により進行状況の確認や事前授業等の参観を行った。主体的に授業や研究を進めていただいたり、授業内容は学校にお願いしたりしたのでそれほど負担感なくできたと思う。
- (2) 諏訪、上伊那より大勢の参観者がありありがたかった。当日は天候に恵まれ、各学校から講演会場への移動もスムーズに行えた。
- (3) 授業研究会では、両校とも小グループで観点を絞って話し合いを実施。子どもの学びの姿から適切な支援や代案を出し合うことができた。最後にグループで話題となった事を発表し全体共有できた。
- (4) 講演会では、講師より確かな授業実践に裏打ちされた質の高い学びについての話があった。非常に具体的でわかりやすく、明日からの実践に使えることが多くあった。司書教諭が担任と学校司書とのつなぎ役となって、連携を深めることが大事だとわかった。また、新学習指導要領完全実施を前に、探究的な学びへと導く支援について参考となった。



## 南信地区学校図書館教育研究会より

阿智村立阿智第二小学校 佐藤 由佳

阿智第二小学校では、私の担任する6年生が総合的な学習の時間に行っている「わたしたちの阿智村 もっと知って盛り上げプロジェクト」の中でのパンフレットづくりの授業を行いました。パンフレットは、自分たちが見つけた阿智村の良さをPRすることで、「阿智村」を日本のもっとたくさんの人に知ってもらいたいと願いつくっています。公開授業は、得た情報を取捨選択しながらグループごとに作成したパンフレットの下書きを風神温泉の旅館の方に見ていただき、アドバイスをいただいてより良いものにしていく場面でした。見出しやキャッチフレーズを考え直したりわからなくなったところを本で調べ直したりと、自分たちがパンフレットの中で本当に伝えたいことを問い返しながらかつ行錯誤する時間となりました。

自分たちが住む阿智村のことをもっとよく知っていく過程では、「調べる」ことが必要です。「調べる」と一言で言っても、聞く、行ってみる、やってみる、本を開く、パンフレットを見る、インターネットで調べるなど、様々なことが含まれます。そのどれにも良さがあり、どれもが子どもたちの学習には欠かせないものだというのを感じました。状況に応じて必要な手段を選択して情報を得て、整理・活用していく力は、これからますます必要になってくると思います。広い目で見つ学習プランを立てていくこと、図書館をはじめ子どもたちが必要とする学習ができるよりよい環境を整えていくことの大切さを改めて学びました。

## 南信地区学校図書館教育研究会に参加して

伊那市立伊那中学校 向山 さやか

阿智村立阿智中学校3年生の授業を参観させていただきました。家庭科の保育の単元を、国語科と司書が連携して授業を進めるという、新学習指導要領でいう教科横断的な視点での取り組みでした。生徒が園児へ読み聞かせする絵本は、村立図書館や小中学校の司書が多数準備して、その中から生徒が選んだそうですが、地域と学校、図書館と教科の協働する姿がありました。その中で、生徒が「保育園児に絵本を読む」という相手意識を持った活発な活動をしていました。

幼児には発達段階に応じて本の選び方が大事であることを学ぶ場面では、0歳から6歳までの発達段階を司書が説明し、いい本だと思っても発達段階の観点という意味で幼児には適さない本もあることを学習していました。グループの中で読み聞かせの練習を行う際には、絵本の特徴を生かして読もうと工夫する姿や、園児に楽しんでもらえるように、聞きやすい声、問の取り方を伝え合っていた点が印象的でした。幼児の発達段階を説明したことは、相手意識に寄り添う基になり、また生徒は自分もそのように成長してきたのだと思い返し、本の見方に新たな認識や愛着が加えられたことと思います。先生は「本と一生付き合える人になってほしい」という願いを持ってこの授業をしたそうです。これは、本の貸し出しを増やしたいという目先のことしか考えていなかった私には、原点に立ち返らせてくれるひと言になりました。

村山正子先生の講演会では、学校図書館を活用した探求学習で、先生の実践されたこととお話していただきました。調べ学習の方法、インターネットでの検索の仕方、新聞の活用の仕方など、子どもたちが主体的にものごとを考えていけるようなヒントをたくさん教えていただき、有意義な研修会でした。

部会だよりは  
長野県図書館協会HP  
でもご覧いただけます。

長野県図書館協会 小中学校図書館部会だより 第154号

発行日 令和元年12月13日

発行者 長野市若里1-1-4 県立長野図書館内

長野県図書館協会 小中学校図書館部会(代表 宮尾弘子)